

観点「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての実践的研究

1 はじめに

かつて「興味・関心・意欲」の評価が新しく入ってきたとき、どのように評価すればよいか、ずいぶんと悩みました。一方、新しい学習指導要領が、小学校では2020年度から、中学校では2021年度から全面实施となります。新学習指導要領では、現行の3観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点に集約され、「関心・意欲・態度」は「主体的に学習に取り組む態度」(以下、「態度」と表記する)に変更されました。ここでは、「態度」の評価について文部科学省HPの記載内容(省略)をもとに実践し、実践した「態度」の評価が適切であったかどうかを検証します。

2 研究内容

次頁の通り

3 おわりに

生徒たちは、概ね、授業を真面目に、時には、それなりに受けています。この状態を「B」としました。生徒たちは評価Aを取るために、いかにそこから積み上げるかという考え方で実施しました。このことが今回の検証で適切であると立証できたところは大きいです。自信を持って「態度」の評価ができるからです。

観点「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての実践的研究

〇〇市立〇〇中学校 〇〇 〇〇〇〇〇

1 はじめに

かつて「興味・関心・意欲」の評価が新しく入ってきたとき、どのように評価すればよいか、ずいぶん悩んだ。一方、新しい学習指導要領が、小学校では2020年度から、中学校では2021年度から全面実施となる。新学習指導要領では、現行の3観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点に集約され、「関心・意欲・態度」は「主体的に学習に取り組む態度」(以下、「態度」と表記する)に変更された。ここでは、「態度」の評価について文部科学省HPの記載内容(省略)をもとに実践し、実践した「態度」の評価が適切であったかどうかを検証する。

2 観点「態度」の評価のためのデータと評価方法について

文部科学省HPの記載に基づく実践とデータの提供のために、同僚と打合せを重ねた。データは本年度(2019年度)1学期の中学2年生理科の評価データである。有効データ数は147であった。

「態度」の評価データを次の①～④とした。なお、①～④の合計は100点満点となる。

①授業での取り組み(50点満点) ほとんどの生徒は授業に一生懸命に取り組んでおり、評価はBである。これを基準点とする。授業中の発言内容やペア・班での話し合いの様子から加点する。授業に参加しない、妨げになる行為を行うときは減点する。ただし、減点となるような状況の場合は、必ず個別の指導・支援や教育相談を行うこととした。

②実験プリントの振り返り(20点満点) 記述内容から「態度」にかかわるところを評価する。

③提出物(10点満点) プリント、ノート、問題集から取り組みの様子を評価する。

④定期テストに「態度」にかかわる問題を入れる。10点満点×2回(中間テスト・期末テスト)

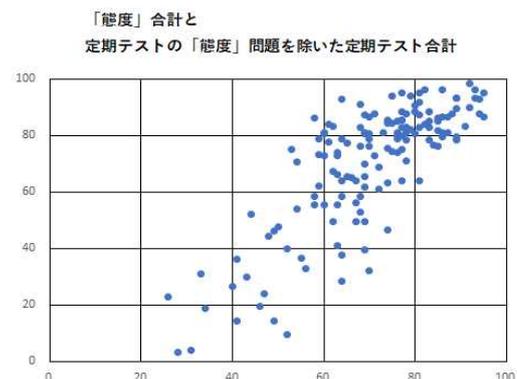
「今回のテスト範囲の中で、心に強く残った授業や学習内容は何か。理由も書いて説明しなさい。」 記述内容から「態度」にかかわるところを評価する。

観点の評価については、①～④の合計を出し、基準に基づき、A・B・Cをつける。

3 相関関係からの分析

「主体的に学習に取り組む態度」が高ければ、その結果が定期テストの合計点に現れるはずであると考え、その相関関係を調べた。定期テストでは、「態度」にかかわる問題を入れていることから、定期テストの合計点から「態度」問題の点数を差し引いた後、100点満点に換算した。観点「態度」にかかわるデータは100点満点である。この2つの量を用いて相関関係を調べた。相関係数は0.7960であった。右はその散布図である。何れの場合でも、かなり強い相関があることが分かる。

「主体的に学習に取り組む態度」が高いほど、定期テストの合計点も高くなる傾向になるということが正しければ、今回の観点「態度」の評価は適切に行われたということである。



4 おわりに

今回の実践では、「授業での取り組み」に大きなウエイトがつけてあり、評価Aを取るためには、そこからいかに積み上げるかという考えで実施した。このことが今回の検証で適切であると立証できたところは大きい。自信を持って「態度」の評価ができる。